
アナタニカガミヲオクリマス。

_瑠姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アナタニカガミヲオクリマス。

【Nコード】

N6501Y

【作者名】

— 瑠姫

【あらすじ】

世界一素敵なプレゼントを、かつて友達だったあなたに。

鏡。それは身近なもので生活に必要なもの。

しかし、そんな普段使っているもので

あんな怖い出来事が起こるなんて思いもしなかった。

あれは、1年前の私の誕生日――

「誕生日おめでとう〜！」

今日は私の誕生日。

友達数人かで私の家に集まりパーティーをしていた。

仲良しグループの約束で

必ず誕生日のその人の家でパーティーを開かなければならない。

だから私も他の友達の誕生日には

プレゼントを持ってその子の家に行っていた。

私の誕生日は3月。

グループの中で一番おそかった。

今年からその子たちと仲良くなったので

パーティーを開くかどうか迷っていたけど

みんな来てくれたので

素直に嬉しかった。

「ハイ、プレゼント！」

そういつてドドド、とプレゼントが手渡される。

一人ひとつ私に持ってきてくれていた。

「ありがとう！開けて見るね」

そういつて箱をひとつずつとって

リボンをとって

箱を開けた。

グループのリーダー的存在のRちゃんは
可愛いふわふわした動物のキーホルダー。
比較的大人しい勉強が得意なMちゃんは
シンプルなメモ帳とペン。

笑わせ役のSちゃんは

面白い顔の人形とお菓子をくれた。

そしてグループの中で一番仲のいい

Yちゃんの箱を開けた。

すると…

「わぁ…綺麗！」

鏡だった。

光に当たると反射して

キラキラと輝く鏡。

「本当に綺麗…」

「そう？よかったあ、喜んでくれて…」

「うん！みんなもありがとう！」

Yちゃん以外、何も言わずに去っていった。

そういつてパーティーはお開きになった。

みんなが帰って片付けをしていて

鏡を持ち上げる。

本ツ当に綺麗な鏡…

透明で輝くふたを開けると

薔薇の模様で縁取られている鏡。

ピッカピカで一点の曇りもない私の顔を映してくれる鏡。

綺麗…

それだけ、しか考えられなかった。考えてなかった。

「おはよー」

次の日、教室に入ると

異様な空気が漂っていた。

「…なに？どうしたのこれ…」

そういつていつものグループに駆け寄る。

無視、されてる？

こつちを見ようとせせず

ただひたすらしゃべっている。

どういこと？

自分の机に行くと

白い菊がばらばらになって置いてあった。

ひどい...

！そういえばＹちゃんは着ていない！

Ｙちゃんなら私の味方になってくれる！

しかし待てど暮らせどＹちゃんは来なかった。

チャイムが鳴る。

先生が入る。

グループのみんなは私を無視したまま、

Ｙちゃんは来ないまま。

先生が言う。

「Ｙハ、キノウコウツウジコニアツテ…ナクナリマシタ。ヒジヨ
ウニザンネンデス…ソコデオソウシキニデルセイトダイヒョウヲニ

メイホド……」

…

なにを言ってるの？

Yちゃん

助けてよ

お願いだから

どうしてなの？

放課後、Ｙちゃんの机に座った。

誰も居ない教室で一人。

Ｙちゃん、グループの友達はみんな私を無視するよ。

どうすればいいの？

それに応えるかのようにＹちゃんの机の中から一枚のプリントが。

手紙だった。

Ｙちゃんが私にあてての。

Aちゃんへ

あの鏡、実はいわくつきだったんだ。

あれを持ってると思ぬんだって。

私はアレをRちゃんからもらったの。これも持っていると死ぬんだってって。

遠まわしに死ねってことだったんだよね。アレ。

でも私は冗談だと思ってずっと持っていた。

だけど最近鏡を見ると後ろになにかがうつってるの。

ごめんね

だけど私は死にたくないから

アナタニカガミヲオクリマス。

Yより

…どっぴろつとなの？

あれから、一年。

グループには無視されたまま。

Ｙちゃんは生き返ったりしないまま。

気が遠くなるような、一年でした。

どういうことなの？

何回も問いました。

そうそう、最近私が鏡を覗くと

後ろになにかうつってるんだ。

どういうことなの？

どうして、Ｙちゃんは鏡を贈ったのに死んだのかな？

どういうことなの？

でもＲちゃんは多分鏡のせいだと思ってる。

今日はＲちゃんの誕生日だね。

世界一すてきなプレゼントを贈ります。

復讐？そうかも知れない

けどどつだっ
ていい

来年のRちゃん
の誕生日が
楽しみだわ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6501y/>

アナタニカガミヲオクリマス。

2011年11月20日04時14分発行